

小紋雅話 (10頁参照)

国文学研究資料館報

第62号

平成16年3月

編集・発行者 国文学研究資料館
 東京都品川区豊町一丁目六一〇
 郵便番号 一四二八五八五
 電話 〇三—三七八五—七二三
 FAX 〇三—三七八五—七〇五
 URL <http://www.nijiac.jp/>
 印刷 株式会社三協社

— 目 次 —

国文学研究資料館の組織改組について	…… 2	新収和古書抄 平成15年	…… 11
浙江大学日本文化研究所との学术交流協定	…… 4	文庫紹介40：鶴見大学図書館	青田寿美…… 12
新生のための閉幕の辞	松野陽一…… 5	展示予告	参考室…… 14
展示・講演等報告	参考室…… 6	平成15年度共同研究追加	…… 14
第27回国際日本文学研究会報告	情報資料室…… 8	彙報・人事異動	…… 15
第9回シンポジウム「コンピュータ国文学」報告	データベース室…… 9	古典籍総合目録データベース公開	…… 18
新収資料紹介52：小紋雅話	大高洋司…… 10	利用者へのお知らせ	…… 19
		平成16年度春・夏季学会	…… 20

国文学研究資料館の

組織改組について

当館は、文献資料の調査研究、収集、整理及び保存等を目的として、昭和四十七年に大学共同利用機関として設置された機関である。以来三〇余年にわたり、全国各地に散在する国文学資料約三〇万点の調査を実施し、約一八万点についてはマイクロフィルム等による収集を実施し、それらの保存、公開等にも力を注ぎ、高い評価を得てきた。

現在の組織体制は、調査・収集については文献資料部が、調査・収集を行った各種資料の整理・保存・閲覧については整理閲覧部が、これらの研究に必要な情報等の提供については研究情報部が、また、原史料等の保存・管理方法の研究・普及活動については史料館がそれぞれ担当するなど、事業を中心とした組織体制による運営を行ってきた。

しかし、収集した資料及び約三〇万点に及ぶ調査情報に関しては、前述の部館ごとに個別的な研究事

業体制をとって来たために、全館的、横断的な研究に充分活用されたとは言い難い状況にある。

また、平成八年度に実施された外部評価委員会の中間報告においても「国文学研究資料館が事業（資料の収集・整理・提供）の体制と研究の体制とを両つながら確立するためには、数々の問題が解決されねばならないと思われる。事業を推進することの必要性は言うまでもないが、事業のための事業にならぬよう留意することが必要ではないか」との意見があり、組織自体の見直しが真剣に検討されるべきであると指摘されている。

さらに、平成一五年四月に当館を基盤とする総合研究大学院大学文化科学研究科日本文学研究専攻（大学院博士後期課程）が設置され、基盤機関として、教育の基礎となる研究活動の重要性がより求められている。

したがって、当館における研究と事業の均衡を図り、両者が両輪

となって機関としての機能をより高めていくための体制整備が、緊急の課題である。

このため、研究体制の構築、調査・収集等事業体制の整備を行い、創設から現在に至るまでに集積された膨大な資料及び情報を基盤とし、文献資料学・書誌学を基礎とした総合的学術研究の推進を図り、また国内外の関連資料の調査・収集等の事業を一層充実させ、日本文学及びその関連の資料研究等のナショナル・センターとして発展させることを目指して、組織改組を行うこととした。

当面、重点を置いて推進すべきものは、次のとおりである。

- (1) 日本文学の総合的研究及びアーカイブズ研究の推進
- (2) 日本文学に関する文献その他の資料の調査研究、収集、整理、保存及び情報の提供等、実施体制の整備
- (3) 総合研究大学院大学の教育研究及び他大学の要請に応じ、当該大学の大学院における教育への協力

研究と事業を分離・独立させてそれぞれを効率的、効果的に推進するとともに、相互の有機的連携

を図るため、研究部門と事業部門を立ち上げる。

まず研究部門においては、現在の四部館体制を廃止し、次の四研究系を置く。

1. 文学資源研究系
書籍の形態をとる文学資源に関して、原本調査に基づいた総合研究を行い、日本文学としての資料的特質を明らかにする。
2. 文学形成研究系
日本文学の作品形成に関し、本文の調査から作品の成立、享受、表現等に至る多様な問題を総合的に研究し、日本文学の文学的特質を明らかにする。
3. 複合領域研究系
文学と他の領域の連動に関する複合研究を行い、日本文学研究に新たな視点を導入する。（人間文化研究機構内の研究連携プロジェクトにも関わる。）
4. アーカイブズ研究系
古文書から電子記録までの記録史料について、資源・管理システムに関する総合的研究を行い、アーカイブズ資源としての活用方法を明らかにする。

全教員をいずれかの研究系に所属させる。また、各研究系は部門

制ではなく研究プロジェクト制として、一研究系に二、三の研究プロジェクトを立て、各教員は一つ以上の研究プロジェクトに属するものとする。

事業部門については、これまで国文学部門と歴史史料部門が個別に実施してきた事業、業務の集約、一元化を図るとともに、事業の有機な連携を推進するため、情報事業センターを設置し、次の四事業部を置く。

1. 調査収集事業部

日本文学を中心とする文献資料及びその周辺資料の調査収集を行い、共同利用に供する。

2. 電子情報事業部

館の研究及び事業の成果を電子情報として提供し、情報システムの有効・適切な運用を図るとともに、他機関における電子化事業との連携を進める。

3. 普及・連携活動事業部

館の事業を広く公開・普及するため、講演、展示、研究集会、講習会等の諸活動を行うとともに、他機関との連携、及び国際交流を図る活動を実施する。

4. 情報資料サービス事業部

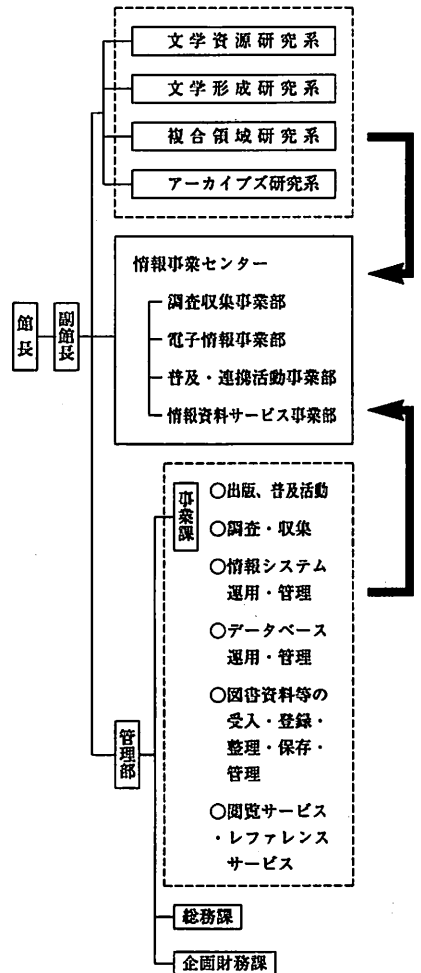
図書・資料の受入、整理・保管、

閲覧サービス等に関する業務を行うとともに、他事業部と連携して電子資料館システムを推進する。

全教員は一つ以上の事業を兼務し、事業担当の事務職員と一体となって調査、収集から整理、保存、閲覧、情報提供に至るまでを、事業・業務の一貫した流れとして確立させ、効率的・効果的な実施体制とするものである。

さらに事務部門においても、各業務を見直し、一層の効率化を図るとともに、法人化に伴う新たな業務に対応するため、事務組織を管理部に集約・一元化し、事務組織の充実を図る。

まず、整理閲覧部門及び事業担



当部門の集中・一元化を行い、管理部に事業課を設置し、教員と一体となって情報事業センターの運営に当たり、事業の推進及び充実を図る。

また庶務課を総務課として、庶務、人事、教育・研究協力、経常的経理の事務処理に当たり、会計課を企画財務課として、法人化に伴い重要度が増す企画（中期計画、年度計画）・評価、財務・経営分析、資産管理等の事務を処理することとする。

法人化後、当館が大学共同利用機関としての機能を一層充実させていくためには、改組後の研究系と事業部門との連携を図るとともに、国内外の機関との共同研究等

による連携協力を推進していくことも、非常に重要な事項である。このため、研究連携委員会を設置し、共同研究及び事業の連携の推進方策等についての検討も行うものとする。

こうした平成一六年四月からの組織改組については、運営協議員会及び評議員会です承を得ている。研究系における研究プロジェクトも具体案が出来つつあり、教員の配置も概ね決定した。新年早々から、すでに各新研究系及び新事業部の活動は始められており、人間文化研究機構の中の「国文学研究資料館」の地位を確固たるものに、評価に足る研究成果を挙げるべく、邁進しているところである。

浙江大学日本文化研究所との

学術交流協定

国文学研究資料館は、かねてから海外の日本文学研究機関との交流を深めてきたが、このたび浙江大学日本文化研究所（中華人民共和国浙江省杭州市）との間に、学術交流に関する協定書を取り交わした。同研究所とはここ数年來、中国所在日本古籍の調査を協同して行ってきた。平成一二年度は王勇所長が当館客員教授として一年間滞在、共同研究を主催し、その成果は「奈良・平安期の日中文化交流 ブックロードの視点から」（王勇・久保木秀夫編、農山漁村文化協会、平成一三年）として出版されている。今後は研究・事業・大学院教育など多方面にわたる交流を進めていく所存である。

を深め、両機関の間における学術交流と研究協力を促進するため、以下のとおり協定を締結する。

- 第1条 両機関は、平等と互恵を基本とし、双方が関心を持つ学術分野において、以下の項目について交流、協力を促進するものとする。
- (1) 研究者の交流
 - (2) 共同研究の実施
 - (3) 講義、講演及びシンポジウムの実施
 - (4) 学術情報及び資料の交換
 - (5) 両機関で合意されたその他の事項

第2条 前条に基づく交流の実施細目については、本協定書に基づき両機関で協議し、決定するものとする。

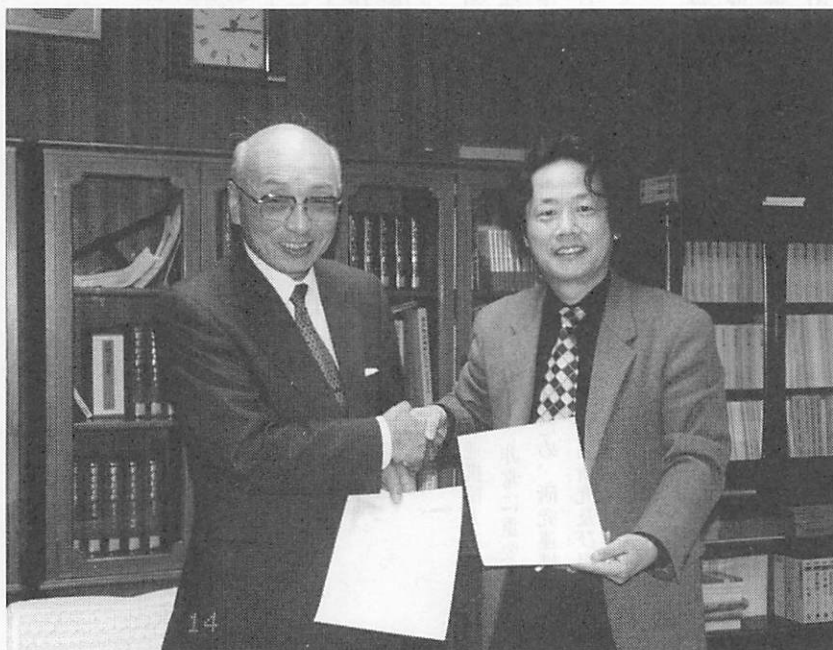
第3条 この協定は、両機関の代表者が協定書に署名した日から効力を有し、5年間有効とする。また、有効期間は、両機関の合意で延長することができる。

第4条 この協定の有効期間内に

においても、いずれか一方の機関が相手方機関に対し、書面により協定の解除を通知した場合は、6ヶ月後に解除することができる。

第5条 この協定は、日本語及び中国語で二部ずつ作成され、両文書は等しく正文とする。

2003年11月14日
 国文学研究資料館長
 松野 陽一
 2003年11月14日
 浙江大学日本文化研究所所长
 王 勇



松野陽一館長（左）と王勇所長（右）

新生のための閉幕の辞

松野陽一

いよいよこの四月の平成一六年

度から、当館も国立機関から法人へ移行することになった。正式名称は「大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館」となる。従来の一四の大学共同利用機関が再編統合され、四つの研究機構となり、その「機構」が四法人となるのであって、個別の研究機関一つ一つが法人になるのではない。

人間文化研究機構には、歴博、国文研、日文研、地球環境研、民博、の人文系五機関が所属し、従来、それぞれに進めてきた、独自の分野の研究と事業を継承する一方、機構としての総合性を生かし、新しい研究分野の開発や先端的研究に意欲的に取り組むべく、連繋の準備中である。

この動きに連動して、国文研の組織も改革し、新しい状況に対応することになるが、その詳細は本誌二・三頁に記したので、参照し

ていただきたい。

教員は四つの研究系に所属し、今回の独法化の特色である、六年間の中期目標・中期計画に対応して設定されたプロジェクトに参加して研究を進める。傍ら、四つの事業部のいずれかに関わって、従来から継承されてきた、文献資料の調査・収集、研究情報の整理・提供などの「事業」も処理して行く予定である。

大学共同利用機関として、発足以来三一年、日本文学研究のコミュニティを基盤として、千二百年間の書籍資料の悉皆調査、複写による収集の事業は、三〇万点の調査カード、一八万点のフィルム集積によって、基礎固めの段階までには到達したといつてよからう。

お宝探し、善本探しを第一義にするのではない。日本人の生み出し、継承、再生産し続けた書籍の全てを、総合的見地から資料性を見極め、研究に利用できるように

すること、この態度に徹してきたことよって、ひとり日本文学研究の内部にとどまらない、学際的、また国際的評価を勝ち得てきたという自負がある。

しかし、これはまだ人口にすぎない。日本の文化資源の一部門である古書籍の豊穡な世界を、誰もが縦横に渉猟して、内的な価値を共有して行くためには、百年を単位とした継続的な意志を持った努力を必要とする。

新機構での研究面の強化された新組織では、一層、質的に利用度の高い機関として、これらの資料や研究情報が活用されて行くことにならう。日本文学の現役研究者九千人（国文学年鑑平成一三年度版）の共同利用の「場」であることを常に意識してきた国文研であるが、今後は、更に広い立場での存在となることを自覚している。

実は、国文研で進めている事業や研究は既に多岐にわたっており、むしろ、整理が必要ほどであるが、昨年から総合研究大学院大学に参加して、日本文学専攻博士課程を設置し、後進の育成にも直接当ることになったことを併せて、明確な柱立てをし、従来以上に研

究者が関わり易く、一般市民の方々の利用にも供し易い機関として行きたい。

なお、立川移転は予定が再び延び、建物の完成は平成一九年度、移転は二〇年度となった。新組織の本格的活動と時期が微妙にズレ、少々困惑気味であるが、平常心を以て処して行く覚悟である。

単独の機関としての国文学研究資料館は、三月末を以て幕を閉じる。従って館報も今号が最終号である。

三一年にわたって御支持、御協力をいただいた各方面の方々に感謝申上げる。そして、史料館も独自の分野と方法を保ちながら、文学研究系と密接な関連性を持った、横ならびのアーカイブズ研究系として改組される新国文研への御指導・御助力を願ひ上げる次第である。（館長）

国文学研究資料館
シンボルマーク



昭和52年5月26日制定

展示・講演等報告

特別展示《中村真一郎江戸漢詩文コレクション展》・公開講演会《中村真一郎の文学と江戸漢詩》

平成十五年五月二十六日から六月六日まで、当館所蔵の日本漢詩文コレクションを中心とする特別展示を開催した。このコレクションは、「頼山陽とその時代」「蠣崎波響の生涯」「江戸漢詩」などを著した作家中村真一郎（一九一八—一九九七）の旧蔵書で、氏の没後、当館に収められることとなったものである。その中から、石川丈山・

柏木如亭・梁川星巖・頼山陽などの漢詩文集や、氏が記した江戸漢詩に関する創作のためのノート、「木村兼霞堂のサロン」の自筆原稿など、約八十点を展示した。また、夫人の佐岐えりぬ氏および軽井沢高原文庫のご厚意により、生前のお写真や直筆の色紙なども併せて展示することができた。江戸から明治にいたる漢詩文の歴史が見渡せるばかりでなく、中村真一郎の広い教養と詩文に寄せる愛情がうかがわれる多面的な展示となった。総入場者数は四百四十八名。

なお、展示の際に配布しご好評をいただいた詳細なリーフレットは、さらに図版と解説を充実させた形で、近日 upload する予定である。また、六月六日には、特別展示に伴う公開講演会を開催した。演題と講演者は以下のとおり。

「中村真一郎の文学の魅力」

富岡幸一郎（関東学院大学助教授）

「江戸漢詩はやわかり」

堀川貴司（当館研究情報部助教授）

「堀の中の「詩壇」」

ロバート・キャンベル

（東京大学大学院助教授）

文芸評論家である富岡氏には、中村真一郎の小説作品の解析と戦後文学の意義についてお話しいただいた。また、コレクションの整理に当たり、今回の展示の構成・解説を担当した堀川・キャンベル両氏には、江戸・明治期における文人知識人の活動と、その漢詩文についてお話しいただいた。聴講者数は百二十七名。講演の最後には、佐岐氏に特別にお願いして中村真一郎の思い出を語っていただき、感慨深い締めくくりとなった。

特別展示《八戸市立図書館所蔵「読本」展》・公開講演会《江戸の本格小説―読本を読む、見る―》

平成十五年十月八日から二十四日まで、八戸藩主南部家の旧蔵で現在八戸市立図書館が所蔵する後期読本の中から、六十五点二百八冊をお借りし、東京で初公開する特別展示を開催した。山東京伝・

曲亭馬琴・為永春水の諸作品や「朝顔日記」「小栗外伝」などを読本形成史の中に位置づけて構成しつつ、葛飾北斎をはじめ江戸上方の絵師たちによる工夫を凝らした画作りについても解説を施し、見て楽しめる展示となった。大名家

が買い上げたため、多くの読者を経た消耗が少なく、初印の形態を留めた美しい本が揃っており、中には書袋や宣伝広告がきれいに保存されているものもあって、その膨大な量のみならず、資料的な質の点でも価値のある展示となった。総入場者数は五百六十四名。共催という形でさまざまなご厚意を賜った八戸市立図書館に深く感謝したい。

また、十月二十二日には、特別展示に伴う公開講演会を開催した。演題と講演者は以下のとおり。

「八戸南部家蔵書の性格」

松野陽一（当館館長）

「絵本と読本」

大高洋司（当館助教授）

「ロマンスの構造―読本文学様式論のために―」

浜田啓介（京都大学名譽教授）

松野館長は八戸南部家と江戸とのネットワークおよび書物の伝来について、今回の展示の企画担当者である大高教授は展示本の見所について講演を行った。また、浜田氏には、読本という小説様式全体にかかわる物語構造についてお話しいただいた。聴講者は百八名。

古典連続講演《万葉集を読む》

平成十二年の源氏物語、平成十三年の西鶴、平成十四年の百人一首に続き、平成十五年は、佐竹昭広当館名譽教授に、《万葉集を読む》と題する講演をお願いした。日程は、①九月二十六日②十月十日③十月二十四日④十一月七日⑤十一月二十一日の全五回。

氏は、校注者のお一人として「新日本古典文学大系 万葉集」(岩波書店)を完成させたばかりであり、また、時を同じくして「万葉集再読」(平凡社)なる論著

を上梓されたところであるだけに、誠に時宜を得た講演会となった。お話は、「玉響」の訓と語義の問題から、大津皇子の詩・山上憶良の長歌にいたるまで幅広く、ミクロとマクロを螺旋的に行き来するがごとき視点で、六十年にもおよぶ《佐竹萬葉学》の一端を惜しみなく語っていただいた。聴講者は一般の古典ファンから大学院生・和歌研究の専門家まで。応募者多数のため座席を増設し、初日は百八十四名ものご参加を得た。中には京都や九州からお越しくださった方もあり、深く感謝している。

なお、当館の企画による古典連続講演は、『古典ルネッサンス西鶴をよむ』（長谷川強著・笠間書院）を皮切りに活字化の運びとなった。続刊に期待されたい。

高校古典セミナー《源氏物語への旅》

文学離れが一種の社会現象になつている昨今、より若い世代に「文学」「古典」の魅力を伝え広めてゆくのが急務であるとの趣意から、高校生を対象とする新企画を打ち出し、その第一回目を平成十五年八月二十九日に開催した。テーマは「源氏物語」。前半は、

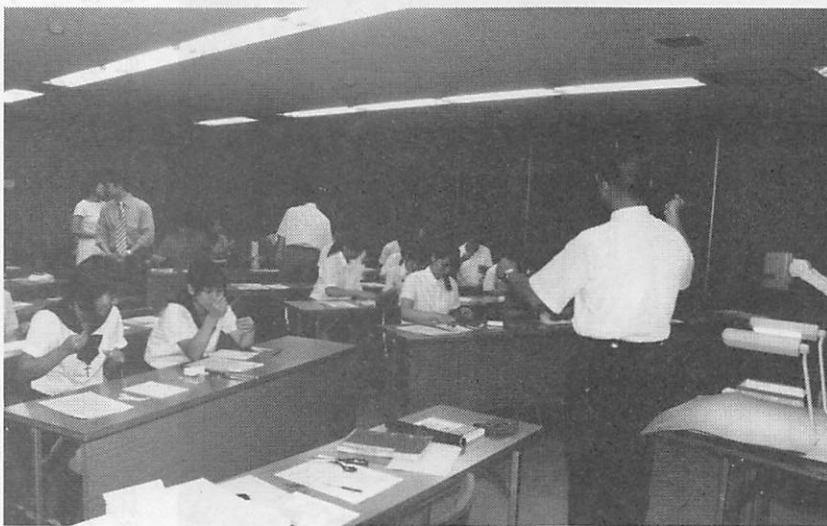
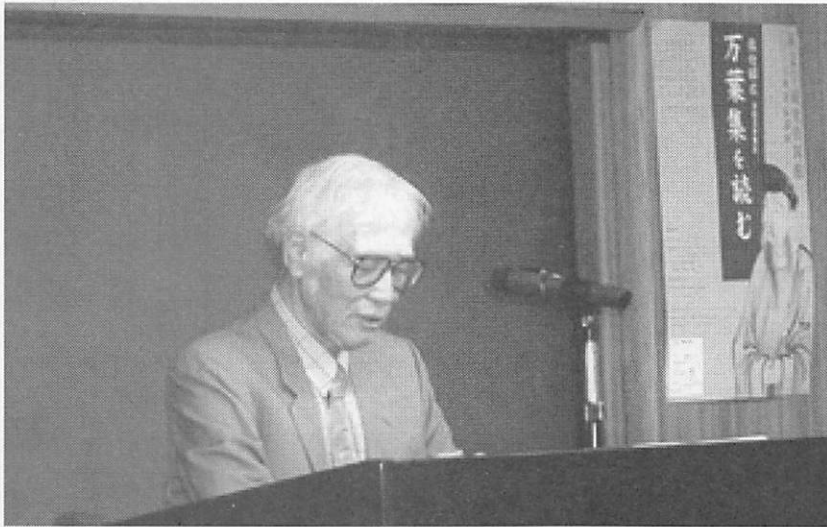
加藤昌嘉助教・入口敦志助手による、物語と享受についての概説（『源氏物語』の作品世界へ）、「江戸時代の『源氏物語』」。後半は、和田恭幸助手による、袋綴本作成の実習（「和本を作ろう！」）。都立高校など五校から申し込みがあ

り、計二十四名（高校一～三年生、および国語科教諭・司書）のご参加を得た。和気藹々とした雰囲気

の中、当館所蔵の写本や版本が次々と紹介されたり、一人一人が製本用の和紙を渡されたりする段では、高校生たちが目を輝かせて

和本に見入り笑顔で糸と針を操る様子がうかがわれ、大変に印象深かった。次年度以降も、こうした試みを続け、古典に興味を持つ世代の裾野を広げるための工夫を重ねてゆきたいと思う次第である。

（参考室 大高洋司・加藤昌嘉）



佐竹昭広氏（上）高校古典セミナー（下）

第27回国際日本文学研究集会

第27回国際日本文学研究集会は、平成一五年一月一三日（木）一四日（金）の両日、「剽窃・模倣

・オリジナリティ―日本文学の想像力を問う―」というテーマのもと、日本学術振興会の後援を得て、当館において開催された。参加者は一〇名（うち海外より三七名）であった。それぞれにテーマをよく理解した、内容の濃い発表が続き、参加者との質疑応答やレセプションでの活発な意見交換がある、実りの多い集会となった。

内容は、研究発表が一〇本（うち二本は招待研究発表）、講演が二本であった。研究発表は、韓京子（東京大学大学院博士課程）「浄瑠璃における「富士浅間物」の展開―「莠伶人吾妻雛形」・「粟島譜嫁入雛形」を中心に―」、黄建香（中国・上海交通大学助教）「白楽天『白羽扇』等の受容による『源氏物語』の「扇」の意味のずれ」、寺田澄江（フランス・国立東洋言語文化研究所助教授）「歌作りということ―和歌史における俊頼の位置―」、丁貴連

（宇都宮大学助教授）「媒介者としての日本文学―国木田独步「運命論者」を手がかりとして―」、阮文雅（広島大学大学院博士課程後期）「南方憧憬」と「帝国」の接点―台湾原住民神話に関わる作品を中心に―」、ステイヴン・クラーク（アメリカ・イエール大学大学院博士課程）「寺山修司―ミッキーマウス―青ひげ」、ホセア・ヒラタ（アメリカ・タフツ大学教授）「創られた被爆者詩人アラキ・ヤスサダ…詩に真実は必要か」、朱衛紅（筑波大学大学院博士課程）「佐藤春夫―春風馬堤図譜」の模倣とオリジナリティ、

オウズ・バイカラ（杏林大学大学院博士課程）「和製アフロディテ」の誕生―谷崎潤一郎の『少年』におけるシンボリズムを中心に―」、デンニツァ・ガブラコヴァ（東京大学大学院修士課程）「異文化としての墓地―永井荷風による花の都の再構築―」、講演は坪井秀人（名古屋大学大学院教授）「女の声を盗む―太宰治の女性告白体小説について―」ジョシ

ユア・モストウ（ブリテイッシュ・ユ・コロンビア大学教授、本年度当館客員助教授）「伊勢物語絵―創造的な模倣と政治的な盗用―」

であった。

なお、これらの内容を収めた会議録は本年三月刊行予定である。（情報資料室）



第9回シンポジウム 「コンピュータ国文学」開催

「文字と書物の交響曲（シンフォニー）」というテーマで、標記シンポジウムを平成十五年十二月五日（金）に開催した。このたびは、

○出版年表の作成

岡雅彦（企画調整官）

○文字を機械にわからせる

原正一郎（研究情報部）

○文字を機械に使わせる

田嶋一夫（いわき明星大学）

という三つのタイトルでの講演である。

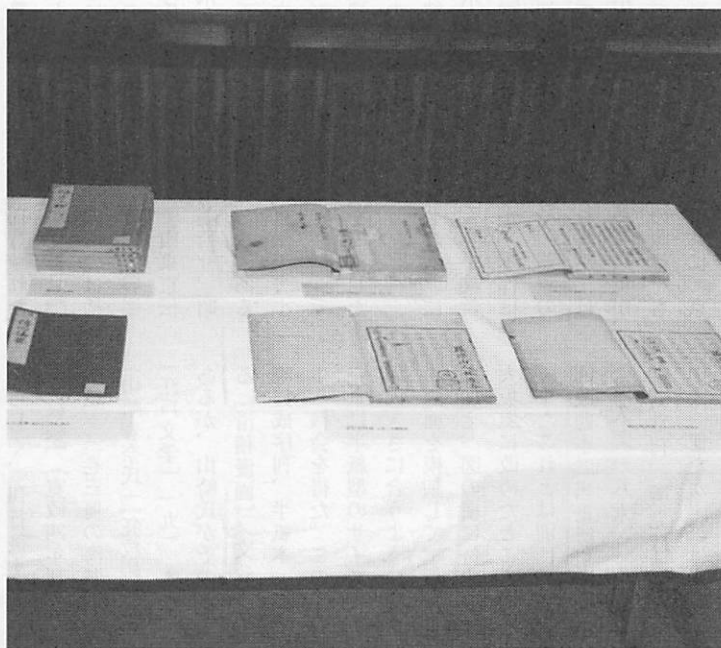
岡氏は、近世初期の刊記を持つ出版物の持つ諸問題を開陳し、会場内に展示された版本資料の解説とあわせて、書誌情報をデータベース化するに際しての、さまざまな問題提議を含む講演となった。

原氏は、古文書OCRを実現するための原理とプログラムの構築手法を自身の研究成果と、最新の研究動向とを交えながら、具体的なアルゴリズムにまで踏み込んだ内容ではあったが、人文系にも分

かりやすくかみくだいた説明であった。

田嶋氏は、国文学研究資料館草創期におけるコンピュータシステム導入に際しての、漢字セット構築の苦労と、現在における漢字セットのあり方を、JIS漢字制定期の裏話を交えての講演を行った。参会者から、「まるでプロジェクトXのようだ」という感想をいただいたように、資料館関係者ならずとも、文学とコンピュータの出会いをめぐるドラマが感慨深く伝わった内容であった。

いずれの講演にも活発な質疑が飛び交い、参加者に少なからぬ感銘を与えたようである。国文学はもとより、人文科学全体におけるコンピュータとの関わりが、単にコンピュータを利用して研究するという次元の枠をこえて、「学問」として成熟しつつあることを実感させるシンポジウムとなったといえよう。（データベース室）



岡雅彦氏（右）と展示風景（左）

新収資料紹介⑤

小紋雅話

このたび貴重本に指定された「手拭合」(九九一九九)に続いて、同書の事実上の画作者である山東京伝が、そのアイデアを単独でかたちにした滑稽図案集シリーズのひとつ「小紋雅話」(江戸小紋を題材とし、題名に「ももんが」を掛けている)が当館の所蔵に帰したので、紹介させていただきます。

書誌的事項は次のとおり。寛政二年(一七九〇)山東京伝自序刊小本(二六・〇×一一・〇センチ)一冊。表紙は薄茶色無地のいわゆる「唐本仕立」、題簽左肩、外題「小紋雅話」「京伝作」完(「」部分は墨書)。表紙以外二五丁。裏表紙見返し部分に簡単な広告の一文と、「書林/江戸通油町/葛屋重三郎」とのみあって、年次記載はない。蔵書印は「鶴鶴文庫」「遠藤蔵書」の二顆(共に方形朱印)。また、表紙右下に蔵書印を削った跡が残る。落書きもなく、虫損・手擦れも極めて少ない美本といえよう。

加えてこの本の三丁目と四丁目の間には、開封を終えた封切り紙(袋綴半丁分、本文共紙)が綴じ

込まれて残存している。書誌学用語としての「封切り紙」については、中野三敏氏「書誌学談義 江戸の板本」に項目を設けて行き届いた解説が備わるのでご参照いただきたいが、要するにこの箇所以下裏表紙までをこの紙で覆い、買って帰って切り開いて初めて全部の内容が分かるという仕掛けである。

さて、すでに知られた事柄(大東急記念文庫善本叢刊三「洒落本集」解説(中野三敏氏)、等)であるが、「小紋雅話」は、前述した滑稽図案集のうち、京伝単独の第一作にあたる「小紋裁」(天明四年(一七八四)序刊)の序跋部分を削って、新たに京伝の自序一丁と図案四丁分を加えた後印修訂本である。この五丁分の柱に丁付がなく、六丁目以下「二」「廿」となっているのは、この際の名残と考えられる。

また「小紋裁」二十丁裏に六行に亘って記された版元挨拶の末尾に「書林白鳳堂誌」とある箇所を削って、先に紹介したように、裏表紙見返し部分で葛重版と分かるようにしてある。白鳳堂は「手拭合」(天明四年跋刊)の版元であり、「小紋裁」は明確にこれと同

じ発想のもとに企画・刊行されたことが知られるが、「国書総目録」等による限り、伝本そのものは稀少のようである(ちなみに、谷峯蔵氏「遊びのデザイン—山東京伝「小紋雅話」—」(岩崎美術社、昭和五九年)に触れるところのある国立国会図書館所蔵「京伝工夫小紋形」も、内実は「小紋裁」で、後補表紙に後人が外題を墨書したものである)。

続いて天明六年(一七八六)に「小紋裁」の後編として「小紋新法」が刊行されているが、本作は当初から白鳳堂ではなく、葛重の刊である。つまり「小紋雅話」は、「小紋新法」の版元である葛重が、その後前作「小紋裁」の版權をも白鳳堂から譲り受けると共に、京伝色をより強く表に出すかたちで内容修訂を企図した作と考えられるのである(寛政二年という刊行年次から見て、序文を削られた二人のうち町人身分の恋川好町(鹿都部真願)はともかく、士分に等しい竹杖翁(森島中良)は改革に際して名を出すことを憚るところがあつたかもしれない)。

本作は、一八世紀末の江戸という限定を超えて人々に好まれたも

のらしく、刊行後すぐに大坂で「狂紋帳」(寛政四年刊)と題する半紙本三巻三冊の海賊版が出た由(山崎春奈氏「狂紋帳」について)、「江戸文学」一九。本書は未見であるが、山崎氏がその改題本とする「滑稽漫画」(文政六年一月、晚鐘成序刊、半紙本一冊)を一見する機会を得た。この本の匡郭は完全に半紙型のサイズであり、その大きさに合うように「小紋雅話」の画面を模刻して、新たな図案をも加え、図の横に付すコメントも大坂風に改めたところがある。

またこれとは別に、江戸版の後印改題本「当世雛形紺名小紋集」(文久(一八六一)三)年間カ、靈湖堂刊、所見は再印)がある。中本一冊だが匡郭は小本、内容は「小紋雅話」そのまま。ただし「小紋裁」の竹杖翁の序(含中扉)と京伝の跋が、異なる版下で復活しているのには驚かされる。さらには「山東京伝図案」と銘打つが内容を水増しした「新形紺名紋帳」(木乃肩坊序、東京・武田(大島屋)伝右衛門刊)と称する中本一冊仕立(匡郭も)の明治版も見たが、もはや紹介の紙幅が尽きた。

(整理閲覧部・大高洋司)

新収和古書抄

平成一五年

天徳四年内裏歌合 写 一冊

後補水浅葱色表紙、二三・八×一七・八種。墨付三二丁。外題欠、内題「内裏哥合 天徳四年三月卅日」。料紙は楮紙、裏打全丁にわたる。「室町後期」写。奥書等無し。歌合本文のほか記録物などを併せて最も内容の多い広本に属し、「平安朝歌合大成」にも既に紹介されている。三条西家旧蔵本。公条筆か。

私家集 写 十三冊
洗引刷毛目文表紙、三〇・〇×二〇・八種。外題は表紙中央に金泥を引いた水浅葱色題簽を貼り墨書。「江戸中期」写。平安・鎌倉時代の私家集を集成したもので、千里・道真（二種）・元良・実頼・師輔・弁乳母・高明・本院侍従・惠慶・安法・保憲女・実方・公任・小馬命婦・馬内侍・経信・匡衡・兼澄・伊勢大輔・赤染衛門・柴式部・和泉式部・源賢・道長・師氏・頼実・定頼・相模・為仲・国基・顕季・紀伊・康資王母・二条太皇太后宮大式・基俊・

頭輔・行宗・寂然・守覚・頼政・忠盛・待賢門院堀川・俊成女・讚岐・小侍従・忠度・実国・式子・光経・慶運の以上五十集および更級日記を取める。安永八年小澤庵が門弟とともに書写校合、朱墨青筆による書き入れを行った旨の奥書があり、即ち龍谷大学蔵の四十人集と同様、所謂蘆庵本私家集の一具である。第一冊表紙に「西莊文庫」印あり。

和漢朗詠集 下 写一軸
下巻「山」部以降巻末までの残欠本。尾題「和漢朗詠抄巻下」。後補藍色地唐草織文表紙、見返し雲英引金採箔散らし。二九・五種×約一二米、四〇または四四種前後の料紙（楮紙）、二八枚継ぎ。無界、字高二四・八種。詩文一行に対し和歌二行の行取り。注記はほとんどが作者名のみ。奥書「嘉元三年三月／菅三品在兼書（朱にて「書」をミセケテ、右傍に「点」と記す）。調点書き入れ、墨に濃淡三種あり、詳細なカナ、返点、声点、堅点を付す。最も濃い一種

は後世（室町頃か）のものだがわずかで、他の二種は本文とほぼ同時であろう。他に朱による朱引、ごくわずかの声点がある（これもほぼ本文と同時か）。本文の筆跡はやや力強さに欠け、特にひらがなは頼りなく見えるが、調点のカナは古態をとどめ、「ン」が「✓」の如く書かれ、また「クワ」の表記に「火」を用いる。奥書の菅原在兼（一二四九〜一三二二）は後伏見天皇の侍読を務めた儒者で、「徒然草」二三八段に登場する。残欠本であるが、専修大学蔵本や天理図書館蔵貞和本などと並んで菅家の点を伝える伝本として貴重である。古筆了任の箱書あり。

一 帆風 大本 刊一冊
改装刷毛目表紙（さらに茶色の覆表紙を付す。二七・二×一九・二種）、外題子持粹題簽に墨書「一 帆風 全、序・巻首・跋・柱題「一 帆風」。宋・咸淳三年冬愬明序、寛文四年孟秋即非如一跋、（同年か）卍山道白跋。無刊記。南浦紹明（大応国師、一二三五〜一三〇八）が宋での修行を終え帰国する際に、師の虚堂智愚や同門の僧から贈られた送別の偈を集め

たもので、卍山が「神京古刹」において完本を見出し刊行したと跋にある。蔵書印「南嶺氏」、また改装表紙裏見返に墨書「智定」。

奈良絵（大橋の中將）写二〇枚
一七×二三種ほどの横型の奈良絵本を解体し、挿絵と対応する詞章一面ずつを並べて台紙貼りとしたもの。元は屏風に貼られていたか。内容は室町物語「大橋の中將」で、従来笹野堅氏旧蔵本・中野莊次氏蔵本（上のみ）・小野幸氏蔵本（下のみ）が知られているが、本資料の詞章は中野本・小野本とほぼ一致し、重なる部分のない両本が同系統であることも判明する。元和・寛永頃かとされる小野本よりやや後の製作と見られる。

御所ま と 横本 写一冊
奈良絵本。一五・九×二三・五種。外題「御所ま と 下」〔下〕は擦り消し。江戸前期の製作。畠山六郎重保が頼朝の御所の的弓の勝負で梶原源太景季に勝つという内容の新出の物語で、奥浄瑠璃「御所の的」と同材の作品。冒頭および途中に欠丁あり。三冊本の零本か。

野槿 特大本 一〇冊

原裝藍色地雷文襷雨龍艶出表紙。二九・七×二一・三種の堂々たる特大本、料紙に厚手純白の楮紙を用いる。伝存の少ない初版本で、当館には高乗敷文庫の丹表紙本について二本目となる。落丁が二丁、また虫損・水損があり、保存状態は好ましくないが、高乗本になく、再版本（一四冊本）にはある、漢文序や最終段の「仏説三身」云々の注が、本書には存する。初版から再版への増補過程を探る上でも貴重な資料となろう。

大梅山夜話 大本 刊一冊

原裝灰色無地表紙、二七・三×一八・一。題簽左肩子持梓「大梅夜話 全」。寛永二十年暮春一糸文守自序。刊記「宝曆四歲次甲戌八月吉辰／洛東書坊 華文軒 中西卯兵衛彫刻」。禅僧の一糸文守が寛永一九年冬に後水尾上皇に對して行った法話の内容をカナ交じりで記したものである。中国の禅僧や文人のエピソードなどを多く引き、内容豊富である。蔵書印「羅浮軒」。

寛永行幸記 卷子本 刊三軸

寛永初期刊。古活字。寛永三年九月の後水尾天皇の二条城への行幸絵巻。本文のみならず行列の人物も木駒の組合せ、いわゆる絵活

文庫紹介 ④

鶴見大学図書館

曹洞宗大本山總持寺のお蔭元位置する鶴見大学図書館は、蔵書数約六五万冊、仏教学は言うに及ばず日本文学関連の蒐書でも名高い。平成一五年度より、古典と近代の担当者・調査員数名が月に一度伺い、合同でデジタル調査をおこなう便宜を供与いただいた。古典は伊勢物語の写本・版本から、近代は明治期刊行の書籍を分類番号順に着手。古筆切や近代作家自筆原稿を含めた悉皆調査を、共に目指している。

一万有余冊という貴重書のなかでも、稀少な古写本を含む源氏物語のコレクションは質量ともに日本有数といえる。勅撰集をはじめとする歌書類も豊富で、平安から室町に至る古筆切も逸品揃いである。与謝野晶子自筆草稿「梗概源

字である。本書は「古活字版の研究」にいう第二種口本にあたるが、口本の中でも誤植の訂正を行う前の刷りである。下巻第二紙の始めに三行ほどの破損欠落がある。

〔諸国官名〕 卷子本 刊一軸

慶安二年刊。二五・八×四四二・五種。表紙欠。内題なし。内容は、諸国、京条里、官名などの基礎知識を昭乗の筆で記したものの。

氏物語」（影印に翻印・解説を付し同館より刊行）、森志げ「お鯉さん」他、名家自筆物の収蔵でも知られる。なおまた、多種多様な古典籍類・近現代の原本等、孜孜収集に努めておられることも書き添えておきたい。それらの一端を窺い知る縁として、「特定テーマ別蔵書目録集成」のシリーズ刊行と、毎年三、四回催される特別展示をあげることができる。前者は「明治乃聖書」以下「源氏物語」「日本の書目 江戸時代を中心に」「連歌の本」「往來物」等、既刊一三冊。後者は、本年一月で百回を数えた企画展で、第九二回以降の展覧リスト・解題（一部画像を含む）は図書館ホームページにアップされている。

館蔵の貴重書に関しては展覧図録「藝林拾葉」「古典籍と古筆切」に詳しいが、両書の解説・図版の全面像ファイルがネット上で公開

されている他、冊子体からウェブ版へと切り替わった図書館報「アゴラ」でも「貴重書紹介」欄が新たに設けられ、「万葉集断簡」（金沢文庫切・一幅）や「幸田露伴自筆原稿「碗久物語」」（「其三」冒頭部・一幅）が閲覧できる。現在、全文画像が提供されている貴重書は、「曾我物語」（二二卷一二冊・江戸初期写）、「伊勢物語古意」（六卷六冊・宝曆三頃写、中村秋香旧蔵・穂積重行氏寄贈）の二点だが、今後の充実が期待される。

以上、鶴見大学図書館が精力的に進めておられる電子化サービスにも焦点をあて、紹介をおこなった。デジタル展示や貴重書画像データはいずれも、図書館トップページ <http://library.tsurumi-u.ac.jp/library/> からリンクをたどることができるので、御参照いただきたい。

（文献資料部 青田寿美）

「伝法比丘昭乗書之以与小童子矣（花押）」の奥書と「慶安二年春於摂州富田刊焉」の刊記と、その後「藤田彩雲翁」の自署と朱印（栄閑）を捺す。松花堂昭乗の高弟藤田友閑が師匠の書を私家版で出版したもの。大坂の出版の早い例。

てにをは不知狂哥 卷子本 写一軸
後補金色牡丹唐草織文表紙、外題なし。料紙鳥の子、三〇・九×約一米。「てにをは不知狂哥」と題して一〇〇首、ついで二首あって、さらに「百首之追歌」として五〇首を収める。その後「老耄説捨」と題し「云捨をかきつけ置は腹筋やよみて笑もなくさめとなる」、及び自跋（末尾「承応（甲午）年四月十八日賀嶋道円／七十歳而綴之」、書写識語（末尾「年号月日同前 矢部五兵衛尉書之」）あり。作者賀嶋道円（一五八五—一六七二）は曲直瀬道三の弟子で尾張藩医。その著作「養生和歌百首」はこれまで伝本が知られず、本書がそれに該当するか。子孫への教訓として作ったもので、道歌の要素の強い狂歌である。

師伝習大事 卷子本 写一軸

表紙なし。料紙厚手楮紙。一八・七糎×約一〇米。松永貞徳の高弟である貞門の俳諧師、山本西武（二六一〇—八二か）自筆の俳諧伝書。和歌十体に倣った「十鉢」、や・て・し・見ゆ・らん・つつなどさまざまなテニヲハ、発句の六義などから成る。奥書「右、秘して同門たりと云共見する事有間敷、尤他見不及申、努々相伝の噂もかたり申間敷者也。しりたればとて度々右のてにをはなと有ましき事也。師伝々在如件。濃き事は別紙に有。／延宝元年十一月吉日 無外軒西武（三・三糎朱文円印あり。印文不明）」（句読点を補う）

若むらさき 小本 刊一冊

紺色表紙。一五・九×一一・二糎。題簽は剥落。二十三丁。下巻欠。戸田茂睡編の歌文集で「若むらさき」として版行された。写本の江戸の地誌「紫の一本」にも収められる。上野洋三編「近世和歌撰集成」地下篇によれば、元禄四年正月、江戸本屋伊兵衛の刊行。了然尼の「むらさきの一本」と「聞書歌」から成る。前者は了然尼が自らの美顔を焼き損じて禪門

に帰依した話で、後者は山名光豊、清水宗川、岡本宗好その他、武家を中心とした江戸歌人の歌集。挿絵、見開き一図（師宣風）、半丁二図。

日本桃蔭比事 大本 刊七冊

藍鼠色採み紙表紙、外題に「絵入」と角書。刊記「宝永六（己丑）年三月吉祥日／寺町通五条上ル町／（玉水屋）北尾八兵衛板行」。浮世草子、比事（裁判）もの、作者不詳。序文に先行作「棠陰比事」「本朝棠陰比事」「鎌倉比事」の名を挙げ、作為を排し、我が国の賢君の恵みを称揚するといふ。短編四九話を収録するが、全てまず訴状を掲げ、「地頭」が裁く形式となつている。新収本は刷りの良い美本。赤木文庫旧蔵。（ナ4—636—1—7）

百さへつり 大本 刊一帖

紺色地に金で若松霞文表紙。二五・四×一八・八糎。題簽「百さへつり」。画帖装。ただし現在は背が破損し、折帖。見開き三十二面。刊記は「書林 東都通油町南側葛屋重三郎梓」。寛政八年睦月、後巴人亭光（頭光）序。挿絵は六

図。絵師は等琳、俊満、雲峰、尚峰。色摺り絵入り狂歌本で、四方赤良（大田南畝）の号、巴人亭を継いだ頭光率いる伯楽連が中心。春興帖としての性格を備え、挿絵も「餅撞き」「常陸帯之神事」「細工はしめ」「朝比奈」「船乗りそめ」「紅梅」など、初春に因んだものが多い。色摺り版画の粋を蒐めた、趣味溢れる画帖として人気が高く、多くは個人コレクターや海外の所蔵機関の秘蔵するところとなっている。当該本は、挿絵、狂歌本文とも揃っているが、乱丁があり、少し痛みも目立つ。（九九一—〇六）

北越雪譜 大本 刊七冊

初編三冊、天保七年九月、大坂・河内屋茂兵衛、江戸・丁子屋平兵衛刊。二編四冊、同一三年正月、上記に大坂・河内屋喜兵衛の加わつた三書肆刊。越後塩沢の鈴木牧之が著し、編集・刊行に山東京山が関与した雪国百科。新収本は初印形態を良く留めた美本で、暗い空から舞い落ちた雪の結晶を見事に視覚化した表紙や、薄墨を多用した挿絵の積雪の表現など、当時の木版技術の高さをうかがわせるに足るものである。

通常展示《和書のさまざま》のお知らせ

平成16年2月2日(月)～5月中旬(予定)

◎午前10時～午後4時30分 ◎土日祝日は休館

◎入場無料

昭和59年以来恒例となりました通常展示《和書のさまざま》は、日本古典籍のいろいろな様態を紹介する書誌学入門的な展示として、毎年工夫を重ねております。和書の装訂や書型、写本や版本のありようを、多角的な構成で御覧いただきます。この展示が、古典籍への親しみを増していただく好機となれば幸いです。

※展示予定書目：源氏物語(正徹本)・伊勢物語髓脳(高乗勲文庫)・寛永行幸記(古活字版/覆古活字版)・元亨釈書(寛永初年頃刊)・小紋雅話(新収資料、本誌10頁参照)・北越雪譜(新収資料)など、約90点。



平成一五年度共同研究追加

日本文学の視覚的享受史

- 伊井 春樹(大阪大学大学院教授)
池田 忍(千葉大学文学部助教授)
今西裕一郎(九州大学大学院教授)
徳田 和夫(学習院女子大学教授)
徳原 茂実(武庫川女子大学教授)
Michael Watson(明治学院大学教授)
藏中しのぶ(大東文化大学教授)
John Carpenter(立命館大学客員助教授)
久保本秀夫(国文学研究資料館助手)
Joshua S. Moslow(国文学研究資料館客員助教授、ブリテイック・シユ・コロソビア大学教授)

日本文学におけるユーモアと風刺

- 野村 純一(國學院大學教授)
伊井 春樹(大阪大学大学院教授)
荒木 浩(大阪大学大学院助教授)
Rajyashree Pandey(上智大学比較文化研究所客員研究員)
Charles Dewolf(慶應義塾大学教授)
小磯 千尋(東海大学非常勤講師)
斎藤壽始子(京都女子大学非常勤講師)
Michael Watson(明治学院大学教授)
岡 雅彦(国文学研究資料館教授)
松村 雄二(国文学研究資料館教授)
大高 洋司(国文学研究資料館教授)
入口 敦志(国文学研究資料館助手)

- 江戸 英雄(国文学研究資料館助手)
伊藤 鉄也(国文学研究資料館助教授)
Anita Khanna(国文学研究資料館客員助教授、ネール大学準教授)

古典籍の分類に関する総合研究

- 石川 真弘(大阪樟蔭女子大学教授)
井上 宗雄(立教大学名誉教授)
岡崎 久司(早稲田大学客員教授)
櫛笥 節男(宮内庁書陵部図書課)
小坂 昌(国立国会図書館)
柴田 光彦(国立博物館客員研究員・元跡見学園女子大学教授)
高田 時雄(京都大学教授)
堤 精二(お茶の水女子大学名誉教授)
長島 弘明(東京大学大学院教授)
中野 三敏(福岡大学教授)
名和 修(陽明文庫文庫長)
松野 陽一(国文学研究資料館長)
谷川 恵一(国文学研究資料館教授)
田淵句美子(国文学研究資料館教授)
落合 博志(国文学研究資料館助教授)
松村 雄二(国文学研究資料館教授)
安永 尚志(国文学研究資料館教授)
中村 康夫(国文学研究資料館教授)
大高 洋司(国文学研究資料館教授)
鈴木 淳(国文学研究資料館教授)

彙報

・委員会日誌・

- 6月18日 将来構想委員会
- 6月20日 図書選定小委員会
- 原本テキストデータベース監修員会議
- 6月30日 文献資料デジタル化小委員会
- 7月7日 広報誌小委員会
- 7月8日 総研大日本文学研究専攻教育研究委員会
- 7月10日 総研大日本文学研究専攻委員会
- 7月17日 将来構想委員会
- 7月22日 図書選定小委員会
- 7月31日 図書資料委員会
- 8月8日 国際日本文学研究集会委員会
- 9月9日 総研大日本文学研究専攻教育研究委員会
- 9月11日 総研大日本文学研究専攻委員会
- 9月16日 講演会・展示会等小委員会
- 9月24日 将来構想委員会
- 9月25日 図書選定小委員会
- 10月14日 総研大日本文学研究専攻教育研究委員会
- 10月16日 総研大日本文学研究専攻委員会

- 10月21日 公開等データベース小委員会
- 11月4日 講演会・展示会等小委員会
- 11月7日 原本テキストデータベース委員会
- 11月11日 図書選定小委員会
- 11月11日 総研大日本文学研究専攻委員会
- 11月13日 国際日本文学研究集会委員会
- 11月18日 総研大日本文学研究専攻入学者選抜委員会
- 11月19日 将来構想委員会
- 11月20日 公開等データベース小委員会
- 12月2日 広報誌小委員会
- 12月4日 公開等データベース小委員会
- 12月9日 移転問題検討委員会
- 12月9日 図書選定小委員会
- 12月11日 総研大日本文学研究専攻教育研究委員会
- 12月11日 貴重書指定小委員会
- 12月16日 総研大日本文学研究専攻委員会
- 12月16日 講演会・展示会等小委員会
- 12月18日 総研大日本文学研究専攻入学者選抜委員会
- 12月25日 移転問題検討小委員会

- ・運営協議委員会の開催について。平成15年11月21日(金)の平成15年度第1回運営協議員会では、教官人事及び法人化に向けた組織改組について協議が行われた。
- ・評議員会の開催について。平成15年12月19日(金)の平成15年度第2回評議員会では、法人化に向けた組織改組について協議が行われた。
- ・外国出張・谷川 恵一・久保木秀夫
- 中野真麻理
- 渡航先 フランス共和国
- 目的 バリ東洋語図書館所蔵和刻古典籍の調査
- 期間 平成15年7月6日～平成15年7月15日
- 安藤 正人
- 渡航先 連合王国
- 目的 旧日本植民地・占領地におけるアーカイブズ政策と記録伝存過程の研究ならびに「圧政とアーカイブズ」国際会議での報告のため。
- 期間 平成15年7月18日～平成15年7月27日
- 加藤 聖文
- 渡航先 台湾
- 掘川 貴司
- 渡航先 アメリカ合衆国
- 目的 図書調査・書影の収集
- 期間 平成15年8月17日～平成15年8月26日
- 岡 雅彦
- 渡航先 スウェーデン・オランダ・連合王国・フランス共和国
- 目的 在欧江戸初期出版資料の調査
- 期間 平成15年8月20日～平成15年9月1日
- 西山 義昭・岩村ときわ
- 渡航先 スウェーデン・オランダ・連合王国・フランス共和国
- 目的 在欧の江戸初期出版資料の調査・収集に関する事務打合せ及び各機関視察
- 期間 平成15年8月20日～平成15年9月1日
- 相田 満
- 渡航先 ポーランド・チェコ・ハ

- ンガリー・オーストリア
 目的 国際コラボレーションによる日本文学研究資料情報の組織化と発信に関する調査・研究
 期間 平成15年8月24日～平成15年9月8日
 伊藤 鉄也
 渡航先 ポーランド・スロバキア
 目的 外国語による日本文学研究文献の調査研究
 期間 平成15年8月24日～平成15年9月3日
 安藤 正人
 渡航先 オーストリア
 目的 旧日本植民地・占領地におけるアーカイブズ政策と記録伝存過程の研究に関わる史料調査と収集ならびに情報交換
 期間 平成15年8月26日～平成15年8月31日
 Joshua S. Mostow
 渡航先 ポーランド・連合王国・カナダ
 目的 The 10th International Conference of the EASISへの参加等のため
 期間 平成15年8月26日～平成15年9月10日
- 武井 協三・江戸 英雄
 渡航先 ポーランド
 目的 国際コラボレーションによる日本文学研究資料情報の組織化と発信に関する調査・研究
 期間 平成15年8月27日～平成15年9月2日
 鈴木 淳
 渡航先 アメリカ合衆国
 目的 米国議会図書館、ハーバード大学燕京図書館における日本古典籍の分類の現状調査
 期間 平成15年8月30日～平成15年9月7日
 原 正一郎
 渡航先 アメリカ合衆国
 目的 国文学研究資料館の資源共有システムとJOCバーレイのECAIクリアリングハウスの連携に関する研究・打合せ
 期間 平成15年9月3日～平成15年9月12日
 山田 直子
 渡航先 台湾
 目的 台湾における日本古典籍の所在調査と研究
 期間 平成15年9月16日～
- 松野 陽一
 渡航先 台湾
 目的 調査・収集に関する交渉及び日本古典籍調査
 期間 平成15年9月16日～平成15年9月18日
 安永 尚志
 渡航先 ドイツ
 目的 科研費基盤研究(S)に基づく古典作品の多重言語デジタルコーパスに関するコラボレーション研究
 期間 平成15年9月21日～平成15年10月2日
 鈴木 一正
 渡航先 フランス共和国
 目的 第14回日本資料専門家の欧州協会年次会議出席のため
 期間 平成15年9月22日～平成15年9月29日
 伊藤 鉄也
 渡航先 アメリカ合衆国
 目的 外国語による日本文学研究文献のデータベース化に関する調査研究及び打合せ
 期間 平成15年9月23日～
- 野本 忠司
 渡航先 アメリカ合衆国
 目的 MT Summit DCにおいて研究成果の発表を行う
 期間 平成15年9月23日～平成15年9月29日
 原 正一郎
 渡航先 ドイツ・イタリア
 目的 地震史料の電子化と震度データベース構築に関する調査
 期間 平成15年9月28日～平成15年10月5日
 松野 陽一
 渡航先 大韓民国
 目的 韓国日本語学会講演等のため
 期間 平成15年10月10日～平成15年10月13日
 岡 雅彦・青田 寿美
 和田 恭幸
 渡航先 中華人民共和国
 目的 浙江図書館及び上海図書館所蔵日本古典籍の調査
 期間 平成15年10月26日～平成15年11月1日
 堀川 貴司
 渡航先 中華人民共和国
 目的 浙江図書館所蔵日本古典

<p>松野 陽一</p> <p>渡航先 中華人民共和国</p> <p>目的 浙江図書館所蔵日本古典籍の調査</p> <p>期間 平成15年10月26日～平成15年10月29日</p>	<p>目的 The Pacific Neighborhood Consortium (PMC) Annual Conference and Joint Meetingへの参加と研究発表</p> <p>期間 平成15年11月6日～平成15年11月9日</p>	<p>目的 コラボレーション研究</p> <p>期間 平成15年11月24日～平成15年12月3日</p>	<p>目的 中国所在日本人引揚関係史料の調査および収集</p> <p>期間 平成15年12月22日～平成15年12月26日</p>
<p>安藤 正人・加藤 聖文</p> <p>渡航先 大韓民国</p> <p>目的 旧日本植民地・占領地におけるアーカイブズ政策と記録伝存過程の研究に関わる史料調査と収集ならびに情報交換</p> <p>期間 平成15年10月26日～平成15年10月30日</p>	<p>松村 雄二</p> <p>渡航先 アメリカ合衆国</p> <p>目的 UCLAで行われるアメリカ日本文学研究学会「AJLS」(2003)にキーマンとして研究発表するため</p> <p>期間 平成15年11月20日～平成15年11月25日</p>	<p>大友 一雄・安藤 正人</p> <p>渡航先 オーストラリア</p> <p>目的 オーストラリアにおけるアーカイブズシステムの調査およびオーストラリア国立図書館所蔵日本企業記録の調査</p> <p>期間 平成15年11月26日～平成15年12月6日</p>	<p>○平成15年9月～平成16年1月) ○平成15年9月1日付け 外国人研究員 研究情報部客員助教授 (16・3・31まで) カンナ アニタ (ネール大学準教授) ○平成15年9月30日限り 併任任期満了 文献資料部第五文献資料室 前期併任助教授 齋藤 希史 (東京大学大学院総合文化研究科助教授) ○平成15年10月1日付け 併任</p>
<p>丑木 幸男</p> <p>渡航先 大韓民国</p> <p>目的 旧日本植民地・占領地におけるアーカイブズ政策と記録伝存過程の研究に関わる史料調査と収集ならびに情報交換</p> <p>期間 平成15年10月27日～平成15年11月3日</p>	<p>相田 満・江戸 英雄</p> <p>渡航先 台湾</p> <p>目的 研究フォーラム「台湾から見た日本文学」での講演(成果発表)及び台湾在住日本文学研究者との交流・研究打合せ</p> <p>期間 平成15年11月22日～平成15年11月25日</p>	<p>岡 雅彦・堀川 貴司</p> <p>渡航先 中華人民共和国</p> <p>目的 北京大学図書館及び北京図書館所蔵和刻本の調査</p> <p>期間 平成15年12月10日</p>	<p>文献資料部第五文献資料室 後期併任助教授 山本 秀樹 (岡山大学文学部助教授) ○平成16年1月1日付け 転出</p>
<p>原 正一郎</p> <p>渡航先 タイ王国</p> <p>目的 資源共有化のための国際</p> <p>期間 平成15年10月31日～平成15年11月3日</p>	<p>安永 尚志</p> <p>渡航先 フランス共和国・連合王国</p> <p>目的 フランス共和国・連合</p> <p>期間 平成15年11月22日～平成15年11月25日</p>	<p>加藤 聖文</p> <p>渡航先 中華人民共和国</p> <p>目的 調査</p> <p>期間 平成15年12月21日～平成15年12月25日</p>	<p>整理閲覧部情報サービス室情報サービス係 清水 律子 (東京大学社会科学研究所図書館)</p>

古典籍総合目録データベース公開

2月より標記のデータベースを公開しました。その概要等についてお知らせします。

概要

このデータベースは、日本古典籍（慶応4年までに日本人が著・編・撰・訳等した書籍）の総合目録データベースです。「古典籍総合目録」（当館編、岩波書店1990年刊）収載データ、及びその後の追加を合わせ、約18万件のデータを収録しています。主に「国書総目録」（岩波書店1963-1972年刊 補訂版1989-1991年刊）に未収載のデータを、全国の図書館・文庫等の所蔵目録から採録しています。

データの採録及び公開をご許可いただいた所蔵者の方には、この場を借りてお礼申し上げます。

利用方法

インターネットのブラウザで下記のURLを指定してください。

<http://basel.nijl.ac.jp/~koten/>

当館のホームページ (<http://www.nijl.ac.jp/>) から利用できます。〈電子資料館／データベース〉の古典籍総合目録を選択してください。

初めての方は利用申請をして、利用者IDとパスワードを取得してください。利用者IDとパスワードは、「国書基本データベース（著作編）」と共通のものになっています。（「国書基本データベース（著作編）」の利用者IDとパスワードをお持ちの方はそれを使用できます。）

検索画面

古典籍総合目録の検索

国内外に存在する古典籍の所在目録データベースです。

検索項目			
書名	<input type="text"/>	中国 <input type="button" value="▼"/> 国方 <input type="button" value="▼"/>	<input type="text"/>
著者名	<input type="text"/>	中国 <input type="button" value="▼"/> 国方 <input type="button" value="▼"/>	<input type="text"/>
分類	<input type="text"/>	中国 <input type="button" value="▼"/> 国方 <input type="button" value="▼"/>	<input type="text"/>
成立年	<input type="text"/>	中国 <input type="button" value="▼"/> 国方 <input type="button" value="▼"/>	<input type="text"/>
全項目	<input type="text"/>	中国 <input type="button" value="▼"/> 国方 <input type="button" value="▼"/>	<input type="text"/>

享年	<input type="text"/>	中国 <input type="button" value="▼"/> 国方 <input type="button" value="▼"/>	<input type="text"/>
刊年	<input type="text"/>	中国 <input type="button" value="▼"/> 国方 <input type="button" value="▼"/>	<input type="text"/>

検索結果の表示件数 (1ページあたり)

DBについて
利用のしかた
アップデート情報

利用者へのお知らせ

◆「マイクロ資料・和古書目録データベース」のデータ更新について

このたび、「マイクロ資料・和古書目録データベース」のデータを更新いたしました。今回、約六、〇〇〇件の新規データの追加と既存データの修正を行いました。今回、追加したマイクロ資料目録のデータの所蔵者は、三九所蔵者(文庫)で、所蔵者名、文庫番号は次のとおりです。*印は新規の所蔵者です。

Table with columns for accession numbers (e.g., 272, 255, 224) and library names (e.g., 弘前市立図書館, 筑波大学附属図書館).

Table with columns for accession numbers (e.g., 281, 298, 299) and library names (e.g., 盛岡市中央公民館, 茨城県立歴史館).

開室及び休室日一覧 (16.4.1~16.9.30)

Calendar table showing opening and closing days from April to September, with circled numbers indicating closed days.

・おもはく哥合(延宝九年刊 一冊)
・古今和歌集序開書(天文十五年)

◆新指定の貴重書、特別コレクション
今回、次の資料が新たに貴重書と特別コレクション(追加指定)に指定されました。

- 72 *藤川柳太郎
76 益田家
71 祐徳稻荷神社(中川文庫)

・徒然草嫌評判(寛文十二年刊 二冊)
・百さへつり(寛政八年刊 一冊)
「特別コレクション」
「日本漢詩文集コレクション(中村真一郎旧蔵)」に中村真一郎自筆の「江戸漢詩に関する創作ノート」(写 一冊)を追加指定。
なお、「貴重書」「特別コレクション」の閲覧には、「貴重書等閲覧許可願」が必要です。

平成16年度 春・夏季学会

①事務局 ②開催日 ③会場

(詳細は当館ホームページhttp://www.nijl.ac.jp/「学会情報」参照)

- 解釈学会 ①〒113-8622 文京区本駒込5-16-9 学会センターC21 日本学会事務センター内 03-5814-5810 ②8月24日 ③未定
 楽劇学会 ①〒101-0051 千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル内 03-5275-7767 gakugeti@pop07.odn.ne.jp ②未定 ③未定
 訓点語学会 ①〒155-0032 世田谷区代沢1-20-10 fax 03-3487-4891 ②5月21日 ③実践女子大学
 芸能史研究会 ①〒602-0855 京都市上京区河原町荒神口下る上生洲町221 キトウビル303号 075-251-2371
 ②6月6日 ③キャンパスプラザ京都
 計量国語学会 ①〒167-8585 杉並区善福寺2 東京女子大学3号館3118号室内 03-5382-6339 ②9月11日 ③東京工業大学
 古事記学会 ①〒466-8666 名古屋市昭和区八事本町101-2 中京大学文学部国文学研究室内 052-832-2151(代)
 ②6月12日～14日 ③梅花女子大学
 上代文学会 ①〒112-8606 文京区白山5-28-20 東洋大学文学部日本文学文化学科大久保研究室 03-3945-7367
 ②5月15～17日 ③奈良女子大学
 昭和文学会 ①〒101-0064 千代田区猿楽町2-2-5 笠間書院内 03-3295-1331 ②6月12日 ③日本大学経済学部
 説話・伝承学会 ①〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137 京都精華大学人文学部人文学科堤邦彦研究室内 075-702-5226
 ②5月1・2日 ③天理大学
 説話文学会 ①〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学教育学部小林保治研究室内 fax03-5272-4435
 ②7月3・4日 ③早稲田大学
 全国大学国語教育学会 ①〒305-8572 つくば市天王台1-1-1 筑波大学教育学系人文科教育学研究室 029-853-6733
 ②5月29・30日 ③千葉大学
 全国大学国語国文学会 ①〒101-0064 千代田区猿楽町1-3-1 榎おうふう気付 03-3294-0857 ②6月5～7日 ③早稲田大学
 中古文学会 ①〒191-8510 日野市大坂上4-1-1 実践女子大学文学部横井研究室内 042-585-8835 fax042-585-8847
 ②5月22・23日 ③東京大学本郷キャンパス
 中世文学会 ①〒150-8366 渋谷区渋谷4-4-25 青山学院大学文学部日本文学科佐伯真一研究室内 03-3409-7731
 ②5月29～31日 ③成蹊大学
 日本演劇学会 ①〒560-8532 豊中市待兼山町1-5 大阪大学大学院文学研究科演劇学研究室内 06-6850-6111
 ②6月25～27日 ③早稲田大学
 日本音声学会 ①〒113-8622 文京区本駒込5-16-9 日本学会事務センター内 03-5814-5810
 ②9月25・26日 ③東京外国語大学
 日本歌謡学会 ①〒340-0042 草加市学園町1-1 獨協大学外国語学部言語文化学科飯島一彦研究室内 048-943-1039(fax兼用)
 ②5月15・16日 ③東京純心女子大学
 日本近世文学会 ①〒102-8357 千代田区三番町12 大妻女子大学文学部江本裕研究室内 03-5275-6028
 ②6月12～14日 ③東洋大学白山校舎
 日本近代文学会 ①〒169-8050 新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学教育学部東郷克美研究室内 03-5286-1590
 事務取扱 〒113-8622 文京区本駒込5-16-9 日本学会事務センター内 03-5814-5810 ②5月22・23日 ③駒澤大学
 日本官語学会 ①〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入 075-415-3661 ②6月19・20日 ③東京学芸大学
 日本口承文芸学会 ①〒150-8440 渋谷区東4-10-28 國學院大学文学部伝承文学研究室内 03-5466-0224
 ②6月5・6日 ③和洋女子大学
 日本語学会 ①〒113-0033 文京区本郷7-3-1 東京大学文学部国語研究室内 03-5841-3813 事務取扱 〒113-0033 文京区本郷
 1-13-7 日吉ハイツ404 03-5802-0615 ②5月22・23日 ③実践女子大学
 日本語教育学会 ①〒101-0065 千代田区西神田2-4-1 東方学会新館 03-3262-4291 ②5月22・23日 ③東海大学
 日本国語教育学会 ①〒112-0012 文京区大塚3-29-1 日本教育研究連合会第3研究室内 03-3941-3420
 ②8月9・10日 ③青山学院大学(予定)
 日本社会文学会 ①〒840-8502 佐賀市本庄1 佐賀大学文化教育学部日本・アジア文化講座 0952-28-8221
 ②6月12・13日 ③日本女子大学
 日本比較文学会 ①〒594-1198 和泉市まなび野1-1 桃山学院大学文学部 国松夏紀研究室内 0725-54-3131
 ②6月26・27日 ③東洋大学白山校舎
 日本文学協会 ①〒170-0005 豊島区南大塚2-17-10 03-3941-2740 ②7月28日 ③仏教大学
 日本文学風土学会 ①〒102-8336 千代田区三番町6-16 二松学舎大学文学部国文学科研究室
 ②6月19日 ③二松学舎大学九段校舎
 日本文芸研究会 ①〒980-8576 仙台市青葉区川内 東北大学文学部国文学研究室内 022-217-5957
 ②6月5・6日 ③宮城学院女子大学
 日本文体験学会 ①〒110-0004 台東区下谷1-5-34 三修社内 03-3842-1711 ②6月26・27日 ③中央大学(予定)
 日本方言研究会 ①連絡先1 〒115-8620 北区西が丘3-9-14 国立国語研究所気付 03-5993-7653 (fax共) 連絡先2 〒560-8532
 豊中市待兼山町1-5 大阪大学大学院文学研究科社会言語学(真田) 研究室気付 06-6850-5134 (fax共)
 ②5月21日 ③実践女子大学
 能楽学会 ①〒169-8050 新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館内 03-5286-1829
 ②3月14・15日 ③早稲田大学文学部
 表現学会 ①〒101-0064 千代田区猿楽町1-3-1 榎おうふう気付 03-3295-8774 fax03-3295-8778
 ②6月5・6日 ③明治大学駿河台キャンパス
 仏教文学会 ①〒605-8501 京都市東山区今熊野北日吉町35 京都女子大学国文研究室内 075-531-9070
 ②6月5・6日 ③立正大学
 美夫君志会 ①〒466-8666 名古屋市昭和区八事本町101-2 中京大学文学部国文学研究室内 052-832-2151(代)
 ②6月26・27日 ③中京大学
 物語研究会 ①〒113-0021 東京都文京区本駒込6-7-10 藤井貞和方 03-3947-6309 fsdkz@nifty.com ②未定 ③未定